

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4570600298		
法人名	医療法人社団 慶城会		
事業所名	グループホーム仰星台 1号館	ユニット名	1号館
所在地	宮崎県日向市大字塩見10946-1番地		
自己評価作成日	平成24年5月15日	評価結果市町村受理日	平成24年7月19日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokouhou.jp/kaigosp/infomationPublic.do?JCD=4570600298&SCD=320&PCD=45
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人宮崎県社会福祉協議会
所在地	宮崎市原町2番22号宮崎県総合福祉センター本館3階
訪問調査日	平成24年6月22日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当ホームは自然豊かな高台に位置しており、近隣には同法人の関連施設があります。医療機関が母体でもあり、医療面でも連携が図れております。介護ケアの中で、自立支援 寄り添うケアを実践しており、利用者様を一番に考えご家族との信頼関係を保つために、様々なイベントを企画し無理なく一緒に楽しんで頂けるように努めております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

利用者は、安心・安全で穏やかに暮らしている。運営母体が医療機関であり、近隣に関連施設もある。理事長は、精神科医ということもあり、ホームの管理者は、ことあるごとに相談し、適切なアドバイスを受けている。各職員は、明るく前向きで向上心があり、管理者との信頼関係が強い。職員のほとんどが介護福祉士の資格を取得しており、資格取得者は優遇される。「その人らしい暮らしを支援する」ために、管理者・職員はよりよいケアに向けて常に工夫を続けている。家族や地域とのつながりにも力をいれており、運営推進会議が機能し、近隣の人々も参加する行事なども行われている。管理者・職員の努力が、地域におけるホームの認識度を年々高めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	1号館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着を加味した理念を下に、ホームでの行事等には地域の方々の参加を呼び掛け、交流を深めています。また、利用者様を第一に考え、個々のケアに努めております。	地域に根ざすことも踏まえた理念をつくり、更に凝縮した「あいさつ・笑顔、その人らしい暮らしを支えるケア」を共有し、あらゆる場面で実践している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	自治会に加入し、地域の清掃等へ積極的に参加し、ホームの行事に地域住民からのお手伝い等もいただきながら、交流に努めております。	自治会に加入しており、清掃活動に参加し、地域の人々にあてにされている。ホームの行事・イベントには、地域の方々に参加してもらい、交流を重ねている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	二ヶ月に一回、運営推進会議を定期的開催し、研修発表、現状報告等を議題とし、認知症に対する理解や支援方法を伝えております。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、会議メンバーから出された意見を下に、改善点などは早急に検討し、サービスの質の向上に努めています。	2か月に1回開催し、地域の方々や家族などの参加メンバーの意見をサービスの向上につなげている。洗面所でお湯が使えるように設備改善された例もある。推進会議を通して、ホームの活動が地域に知られるようになった。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市の担当者からの連絡がこまめにあり、問題点・疑問点などは、会議時や電話等で分かりやすくご説明いただいております。	市の担当者との関係は良好で、インフルエンザの時期には気遣いの連絡をいただいた。地域包括支援センターの新人の実習を受け入れるなど、協力関係づくりに取り組んでいる。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の鍵は日中施錠しておらず、利用者様は、敷地内の畑などへ自由に出入りが出来るようにしている。見守りの意識を持ち、拘束について認識し、寄り添うケアに取り組んでおります。	「身体拘束をしないこと」については、管理者および全職員は、十分理解している。玄関も解放されており、見守りと寄り添いで、身体拘束のないのケアに取り組んでいる。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待の研修会には、積極的に参加しております。研修内容を月1回の勉強会の議題とし、言葉づかいなど、職員の意識付けを行っております。			

自己	外部	項目	自己評価	1号館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在のところ、該当する利用者様はおりません。研修会などは積極的に参加して、学ぶ機会を設けております。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項説明書並びに、契約書や個人情報の取り扱い等に対して、面接時に説明し、文章にて同意を頂き、ご家族に理解、納得していただいております。改定時等は、文章、口頭で説明を行い、同意書をいただいております。			
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	第三者機関を設けており、そのことをご家族にお知らせしております。ホームに意見箱を設置し、また、管理者も窓口として受けております。運営推進会議時も、意見の出やすい雰囲気を作っており、申し立てがあれば協議し、改善に反映しております。		利用者や家族が意見要望を表明しやすい雰囲気づくりに日ごろから心がけている。洗面所でお湯が使えるように改善されたのも、家族の意見が反映された結果である。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の勉強会を開催し、意見交換が出来るようにしております。また、申し送りノートに気付きを記入し伝え、それぞれの意見等は十分に話し合い、運営に反映しております。		職員が意見表明をする機会は、月に1度の勉強会や申し送りノートに気づきを記入するなど、日常的に設けられている。意見や気づきについては、問題解決の話し合いがなされ、食事時間の変更などの改善例がみられる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	介護水準の向上、各資格取得を支援して、職員のレベルアップに努めております。達成度合いに応じて、正社員への転換、役職に昇進、向上心を持って働けるように努めております。			
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修には交替で参加し、スキルアップに努めております。			
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県北グループホーム協議会を始め、系列のグループホーム管理者会等に参加し、情報の共有を行いながら、サービスの向上に繋げております。			

自己	外部	項目	自己評価	1号館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初回面接時に、ご家族様及び利用者様には、自然に何でもお話して頂けるような、雰囲気作りに努めております。センター方式B3を記入して頂き、職員の支援に対しての思いを伝える事で、安心して生活が出来るように努めております。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初回面接時に、ゆっくりと話せる場を設け、ご家族の希望や不安に思っている事をよく傾聴するように努めております。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者様やご家族様の希望を聞き入れながら、必要なサービスを取り入れ、支援に努めております。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の得意分野を生かし、日常生活を共にし、家庭的な雰囲気の中で、信頼関係が築けるように努めております。			
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月文書で、利用者様の近況をご家族様にお知らせしております。また、面会時にも日々のご様子を報告し、必要な時は電話にての連絡も行っております。ご家族様も参加できるようなイベントも随時計画しております。			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会は常時受け入れております。馴染みの人が他施設に居らっしゃる場合等は、職員と共に面会に伺います。誕生会や行事などは、利用者の方の友人等にも声を掛け、参加して頂けるような関係を築いております。	利用者の行きつけの美容室、なじみの人のいる商店に行くなどの支援をしている。また、誕生会や行事の際に、利用者の知り合いの方に参加していただく気配りをしている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士が良い関係を築けるように、スタッフが間に入り、コミュニケーションがとれるような時間や環境づくりに努めております。			

自己	外部	項目	自己評価	1号館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所の場合においても、病院への面会を行い、状態の把握に努めております。夕涼み会等にもご家族様をお誘いしたり、年賀状での挨拶など、関係が継続できるように努めております。			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式B3を活用し、ご家族に協力して頂き、利用者様の思い等を知り、検討することで、その人らしい生活、寄り添った介護を提供しております。		前回の外部評価で話題になった「思いや意向の把握」に役立つツールとして、センター方式(認知症の人のためのケアマネジメント方式)B3を採用。新たに情報の収集を行い、家族の協力で思いや意向がより明確になり、その人らしい暮らしへの支援につながっている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族様から暮らしの情報を得て、生活歴を知り、介護計画や毎日の生活に取り入れ、サービス支援に努めております。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員間で申し送りノートを活用し、毎朝のミーティングにて、個々の状態把握に努めております。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月1回カンファレンスを行い、課題についてはその都度討議し、モニタリング・評価を行っており、本人・ご家族の意見を考慮し、介護計画の作成を行っています。		各利用者ごとに担当職員がおり、センター方式B3の採用で、家族による情報の再集積と相まって、月1回のカンファレンスが充実してきている。モニタリングにより、現状に即した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	フォーカス記録にて、記録時間の短縮、焦点を読み取ることで、簡潔に把握し、職員間での確に情報を共有、計画実践に反映しています。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	状況に応じて職員間で話し合い、本人やご家族の意向を尊重しながら、サービス提供に努めております。			

自己	外部	項目	自己評価	1号館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	家族、地域、学校等へ行事の案内状を送り、積極的に参加を促しております。介護実習の場を提供し、ホーム外の方との交流を図ったり、暮らしを楽しめるよう、支援に努めております。			
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回の定期受診を行っております。かかりつけ医の多くが関連の医師ということもあり、連携を図りながら、早期受診治療に努めております。	掛かりつけ医は、運営母体の医師が多いが、他の病院に行く利用者もある。医師・家族・ホームとの連携で、適切な医療を受けられる支援をしている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	当ホームは、医療連携を図っており、少しでも体調に変化のあった場合は、看護師に報告・指示を仰ぎ、早期に受診する等の対応を行っております。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は頻繁に面会に行き、状態の把握に努め、主治医、ソーシャルワーカーを交え、ご家族と意見交換をする機会を設ける事で、退院に向けた支援を行います。			
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人・ご家族の意思を確認し、かかりつけ医の意見も踏まえ、対応方針を取りきめて、状態の変化と共に再確認を行いながら、本人・ご家族をチームで支援できるように取り組んでまいります。ホームに対象者が出た場合の課題についても、勉強会等で意見交換を行っております。	既に看取りの体験がある。重度化に伴う意思確認書(同意書)を作成し、家族・掛かりつけ医・看護師・ホームとの連携で、昨年看取りを行った。今後も、本人・家族の意思確認と医師の意見を踏まえ、チームで支援に取り組んでいく。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年間行事の中に救命救急法を取り入れ、専門の方のご指導の下、吸引機、AED操作方法を学んでおります。勉強会の議題の中で、緊急時の対応や連絡方法を訓練しております。			
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防関係の指導の下、年3回の避難訓練を定期的に行っております。避難誘導、消防署への通報訓練、初期消火を繰り返し行い、職員は防災意識を持つように心掛けております。	災害時の避難訓練は、地区消防団との連携で年3回行っている。夜間想定も含めて、避難誘導、消防への通報、初期消火訓練を繰り返し行い、職員の防災意識を高めている。ホームが災害時の受け入れ場所でもある。		

自己	外部	項目	自己評価	1号館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	排泄、入浴時には、特にプライバシーを確保し、個々を尊重し、声掛けには十分な注意を心掛けております。個人情報に関する記録、書類、ホーム内に提示する写真などは、ご家族に事前に同意をいただいております。	一人ひとりのプライドやプライバシーを大切にすることは、ケアの基本と考えている。職員は、それぞれの利用者ごとに想像力を働かせ、その人に合った声かけの工夫を全員で話しあっている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活においては、常に自己決定をしていただけるように心掛けております。毎朝の更衣は、自分の好みの服を選んでいただいたり、誕生会には本人の好きな物を聞き、プレゼントする等の支援に努めています。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日常生活は、ゆっくりと本人のペースに合わせ、庭で草むしりをされる方、調理のお手伝いをされる方、食後横になられる方、本人の希望に沿って生活して頂けるように努めております。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外出時には、お化粧、好みの服装、その人の個性が生かせるように、本人の好みや意向を大切にしながら助言を行っております。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事一連の作業を、利用者様と共に職員が出来る範囲で行います。個々の利用者様の誕生日には、好みの物を誕生者以外の利用者様と共に手作りし、一緒に楽しい食卓を囲みます。	訪問日の昼食はギョウザであったが、ニラを刻んだり、あんを包む作業を利用者と職員が一緒に行っていた。後片づけもできる範囲で一緒に行っている。風のあたる玄関先で食事をしたり、外食を楽しむこともある。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量のチェックを毎食後に行い、残食のある方には、おやつにバナナ等を提供しています。体重測定を毎月行い、体重管理に努めています。食べこぼしのある方は、お箸やスプーンを提供、嚥下状態を観て、食事形態の検討等を行っています。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食前に紅茶でうがいを行い、食後のうがい、歯磨きの声掛けを行っております。義歯の不具合時は口腔内を観察し、痛み等がないか確認を行い、受診の必要性があれば、ご家族と相談の上、受診しています。			

自己	外部	項目	自己評価	1号館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	チェック表にて、利用者様の個々の排泄パターンを把握し、定期的に声かけやトイレの誘導を行うことで、少しでも自立した排泄が出来るよう支援しています。		利用者ごとに排せつチェック表を作り、排せつパターンの把握をしている。何時間排せつがないか、一目で分かる。紙オムツは使わずに、声掛け・誘導で、自立に向けた排せつを支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	チェック表にて、利用者様の個々の排泄パターンを把握し、便秘時には繊維の多いものを提供したり、腹部マッサージや運動を取り入れ、出来るだけ自然に排便を促すように心掛けております。			
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴は毎日提供しておりますが、皮膚の状態や体調に合わせてながら、入浴日を検討したり、無理強いすることなく声掛けを行っております。		入浴は毎日行っており、入浴を好む人は毎日、そうでない人も少なくとも週に3回は入浴している。皮膚や体調の状況に応じて、個々に合った支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は、体操やレク活動を提供したり、個々の活動(畑仕事等)により身体を動かすことで、自然なリズムで睡眠・休息がとれるように努めております。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方されている薬の効用、副作用等を把握し、医師の指示の下で安全な服用に努めております。服用に関しては、名前・処方回数など、誤薬を防ぐために、繰り返し確認を行っております。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者様の個々のできる事を理解し、無理をせず、自由に生活できるよう支援しております。趣味や興味のあることに焦点をあてて、暮らしが張り合いのあるものになるよう支援しております。			
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買い物やドライブ、外食に出掛けたり、他の施設への慰問見学、花見、親睦会(焼肉)、屋外食への参加を積極的に支援しております。		できるだけ屋外に出る支援をしている。畑の作物の収穫をしたり、玄関先で食事をしたり、風に当たる機会を設けている。買い物やドライブも行っているが、時には職員を増やして、外食にでかけたりしている。	

自己	外部	項目	自己評価	1号館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物に行く際は、利用者様に声掛けをし、希望のある方は、お預かりしているお小遣いを持参してもらい、欲しい品物を購入できるように支援しております。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	必要時、又は、本人の希望時は、ご家族に電話を掛け、本人の納得のいくように対応しております。遠方に居るご家族へのお手紙は、無理のないように声を掛け、出来る範囲で、やりとりの支援をしております。			
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	家庭的な雰囲気を作る為にも、季節を感じる飾り付けや行事等の写真を掲示して、過ごしやすい生活が送れるように心掛けております。	建物設計の時から採光や気温調節などに配慮がしてある。季節を感じる飾り付けや各職員が季節の花や植物を持参し、居心地よく過ごせる気配りをしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食事、レクリエーション活動など、交流の図れる場を提供し、施設内は皆でくつろげるように、大型TV、カラオケを設置し、ソファに腰掛けてお茶を飲みながら、談話が出来るように工夫しております。			
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前に使用していたTV、タンス、位牌などを持ち込んで、馴染みの物を活かし、その人らしい生活が出来るように、ご家族と相談しながら、安心して過ごせる環境を工夫しております。	ホームが準備しているのはベッドのみで、あとは利用者のなじみの家具や仏壇などが置かれている。家族の写真を飾っているケースもある。職員持参の花々もあり、居心地良く過ごせる工夫をしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホーム内は手摺を設置し、安全に生活でき、身体機能が維持できるよう工夫しています。居室内の段差もなくし、歩行時など、身体に負担を掛けないような環境造りをしております。			